

最近のスカウト活動について思うこと

新藤 信夫

1. スカウト運動における減少傾向が続いているがその要因はなんだろう??

- ① 一般的な県連盟を見ると、団の人員が多くそれなりの活動ができているのは数個団に過ぎないと思われる。これらの元気団はますます発展しているが、その他の団は、組や班が2ヶ班を維持するのに四苦八苦している状態である。元気団の様子から見えることは、**指導者が多く、プログラムが楽しく展開されていることが想像されます。隊活動、班活動がうまくリンクされスカウト運動の意図するところを理解しながら進められているものと思われる。**保護者たちは自分の子供をスカウト活動に入れるときはしっかりとした活動を行っているところを選ぶので、ますます元気団は成長していく。**(スカウト運動の基本を理解し、実践している!!)**
- ② 元気団にとっても及ばない団は、社会環境などの変化もありますが、指導者、特に団委員長の運営能力&隊長のスカウトスキル能力不足とプログラムの企画・展開などが不十分ではないかと思われる。**キーマンである隊長は、スカウト知識とスカウト活動にかけるパッション(情熱)のあることがスカウト運動発展の基本である。スカウト活動は野外での実践活動であります。**
- ③ 最近のスカウトの資質が低下している。(隊長の指導力か or 進級科目の内容か??)
スカウティングは、班制度、進歩制度などの基本に基づき、少し厳しくしっかり推進すべきである。
- ④ スカウト運動は、ヨーロッパが盛んで、イギリス、スイスではハイアドベンチャーを実施しておりアメリカも同じだが、**日本は指導者訓練が室内化され、スカウト活動もまともなアドベンチャー活動が出来ていないので、この辺から野外活動などの見直しを始めております。**
- ⑤ **ユニフォーム姿が見えず、スカウト活動が社会に知れ渡らない、地域社会における日常のスカウト活動や、日々の善行、奉仕活動の機会が少く人目に触れないのではないかと??**

2 進歩制度について・プログラム展開(上進率向上と退団させないためにも)・成長戦略

- ① 最近の進歩制度は複雑になっており、1級に上進してもスカウトの知識・技能が身につけていない。(選択性が多く、スカウトとしての MUST 要件を満たさなくても進級できる)
- ② **進歩制度改定により、ボーイとベンチャーの進歩課程を初級から富士スカウト章まで1本化した。**ターゲットバッチ、マスターバッチ、プロジェクトバッジなどを廃止して、現行の技能章に改善、新設を加え進級課程と連携させて、**スカウトの成長に結び付ける様に改定した。**スカウトは1級スカウトになってこそ一人前である、それぞれの級の狙いと取得技能を明確にして徹底する。(初級スカウト章(仲間)、2級スカウト章(ハイキング)、1級スカウト章(キャンピング)、菊スカウト章(模範)隼スカウト章(冒険と奉仕)、富士スカウト章(リーダーシップ)で、平成14年以降の進歩制度の大幅改定である)
- ③ スカウト活動を通じて**公共奉仕などを行い、シチズンシップ(良き市民性・公共精神)を身に付けさせたい。**(奉仕のための奉仕ではなく、プログラム展開の一環として実施してください)

3 会員の拡充を図る(全国 29/3, 109528 名は維持したい)(群馬 29/3、1513 名)

1) 新規会員の募集について 28年度は11,484名入団(前年比10.0%) (群馬 192名11.9%)

- ① 保護者、特に母親に自分の子供の成長をベースに、口コミ募集活動を支援していただく。
- ②、隊員が少ないとはいえ「**さすがスカウト**」と言われる子どもの育成に重点を置き光らせる。
- ③ 群馬県連は、募集活動で退団加盟員見込み 18,5%up にする(1513名 : 29 年目標280名)

↑↑ 退団見込み率 ↑↑

2) 上進率の向上に努める。(隊長の責任として!!)

- ① 上進率の向上を図る活動を行う (ビーバーからカブへ、カブからボーイへの上進を重点に行う) **スカウト=指導者=保護者のコミュニケーションを密にしてスカウトの成長を共有する。**
- ② 上進受入側の日常の隊活動を魅力あるものにする(隊長は上進したくなる様に常にスカウトにアピールする) スカウトたちに常に進級を促し富士スカウト章を目指させる。
- ③ **ベンチャー・ローパーの活動が最もシチズンシップなどを発揮して、いろいろな奉仕活動などでスカウト活動が地域社会にアピールできます。**

3) 中途退団の抑制に努める。28年度は17,135名 14.9%辞めている(群馬は△299名 18.5%)

- ① 隊長は日常のスカウト活動の充実と、スカウト、保護者のスカウト活動満足度向上を絶えず意識し「**より良いスカウト**」に成長していけるように最大の努力をする。
我々指導者は、保護者が子供をスカウト活動に入れてよかったと思われる様な結果を出すこと。
- ② 保護者にスカウト運動の良さを理解して頂き、常に活動を支援して頂ける様に努める。
- ③ 育成会、団委員会活動を活性化させて、保護者にも隊、団活動の参加支援をして頂く。

*** 28 年度実質退団者は全国では△5651 名で109,528名、群馬は△107名で1513名**

4 スカウト活動に入団させた、保護者に対する顧客満足度の向上を!!

1) 何のために子供をスカウト運動にいれたのか。(保護者の期待値とは)

- ① 隊指導者は、保護者が子供をスカウト活動にいれた期待値を把握しておりますか??
- ② スカウト活動に入った子供達に変化点を作りましたか? (挨拶、規律などを徹底)
- ③ 保護者と隊指導者のコミュニケーションが定期的にとれておりますか(子供の成長状況)

2) 保護者の期待値に応えるような活動をしておりますか

- ① スカウト活動の目指すものを保護者によく理解させながら、保護者の期待にも応える
- ② 人間として成長して、社会人として身につけていくには野外活動などは大変有効な活動である(協調性、野外活動技術、指導性、順応性、対応力、チームワーク力……)
- ③ **最近の人は、言われてない、聞いてないと、自分で考えて行動をする積極性がない。**

3) スカウト活動の成果は具体的に子供に現れましたか

- ① **スカウトの進級状況**の記録(進歩かべ掛け表など)を隊指導者と保護者が共有する。
- ② 保護者との関係は、団委員会だけの問題ではなく、年に何回かは**子供の成長に対するコミュニケーション**を取るべきである。(保護者の理解と子供を辞めさせないためにも)
- ③ 隊指導者自身がスカウトの成長後のサンプルであるように努める必要がある。
- ④ 保護者から、**コストパフォーマンスのこと**を言われたいような活動ができておりますか。

「**難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に**

真面目なことを愉快地に、愉快なことを一層愉快地に」

井上 ひさし